

日兩本願寺末寺立花眞松伐渡始。右御入紙面御郡所に本紙有之。後例帳にも有之。とあり。此の舊記に據れば、延寶二年より初りたるならんか。但し立花會は早くよりありしかど、眞松伐渡方始りたるは、延寶二年より起れりといふ事にや。夫れより後、寶永二年閏四月郡奉行より石川・河北兩郡山廻共への達書に、神護寺・寶圓寺・天徳院・如來寺并兩末寺へ相渡る眞松伐に罷出候節、此方指圖次第爲剪可申、兩末寺の見合札は取上げ、札に無構山廻附爲伐可申とあり。按ずるに、今越前吉崎の道場に御花松とて、昔蓮如上人の時よりの舊蹟とす。又金澤城内には御花畑とて、昔本丸の地に本源寺ありし頃よりの舊蹟とす。然れば立花會も、本源寺の時よりの舊例ならんか。

○地内照圓寺

別院の地内にありしゆゑ、俗に地内と呼べり。貞享二年の照圓寺山來書に、當寺開基蓮如上人之弟子法教坊と云ふ者、二尊影像を本願寺より賜はり、享德三年寺建立す。とあり。按ずるに、寶永元年郡方舊蹟調査に、石川郡五影堂村領に御坊屋敷と云ふ處有之。昔照圓寺と云ふ一向寺有

之由。其跡今は畠と成る。と見ゆ、加賀古蹟考に、石川郡五影堂村御坊屋敷は、則ち今金澤西本願寺末寺の傍なる照圓寺の舊蹟也。故に此一村は今も照圓寺の門徒なりといへり。按ずるに、照圓寺此の地にありし時、彼の蓮如上人より賜はりたる二尊影像を安置せしゆゑ、そのかみ邑民崇敬して、御影堂と稱せしに依りて、遂に邑名に呼びたりしを、後に五影堂と書けるものなり。御影堂といふ名は、東鑑卷十九に崇徳院御影堂領といふ事見ゆ、太平記卷十一には性空上人の御影堂、三國傳記卷三には弘法大師御影堂とあり。蓮如上人遺徳記に、存生の間に御影堂建立せばやと思召しけり云々。また實悟記に、御影堂の毎朝の經念佛は古はながく御入候ひき。など見ゆたり。

○照圓寺神教丸

世人照圓寺の赤玉と呼べり。此の藥法は、元と舊藩前田家の傳方なるを、藩士福田氏へ賜はり、福田氏より照圓寺へ傳へたりと。舊傳に云ふ。昔舊藩五世參議中將綱紀卿の時、城内作事係の庸夫俄に腹痛を煩ひ出せり。其の旨聞召され、此の藥を吞ませ可然とて、三十人頭福田彌平太へ渡し

賜はりたり。則ち吞ませつるに驗功ありし由、彌平太言上して御禮を申上げるに、其の方などは人夫共を裁許する身分也。常に懐中致し居可然。此の藥方書を渡すべく、調合致し置くべしとて許されたり。然る處其の後彌平太上京するに、道中にて旅僧腹痛を難儀し、路傍に打臥し居たり。彌平太其の難儀を察し、懐中せし彼の藥を取出し吞ませけるに、驗功ありとて甚だ悦びけり。彼の僧彌平太の名を尋ねける故、姓名住所を申聞け、彼の僧の名をも尋ねるに、金澤照圓寺の住持なるよし申聞けたり。然るに彌平太歸國の後、照圓寺の住持禮に來り、路中にての驗功あるを甚だ悦び、何卒此の良藥を山里の者共へ與へ度く、可成は藥法の製造方を傳受あらん事をひたすら乞ひけり。依つて彌平太其の頭末を綱紀卿へ言上しけるに、一味省きて相傳すべしとの命に任せ、照圓寺へ相傳しけりと。夫れより照圓寺に於て調合し、寺法の製藥とはなしたり。今は東御坊町の藥種店までも赤玉とて製出す。是も世人照圓寺の赤玉と稱し、里人などは照圓寺の傳方なる事をも知らず。赤玉の藥は照圓寺より出すのも藥種店に調合するのと同じ

やうに心得、其の眞偽をも辨へず買求むといへり。

○地内光教寺

照圓寺と同じく別院の地内にあり。龜尾記に云ふ。蓮如上人江沼郡山田村に於て光闍坊を建立し、後に七男蓮誓住持す。其子顯誓書を作り、反古の裏と名付く。其後西末寺地内にまた光教寺とて一寺を建立し、江沼郡山田の光教寺をも兼帶すと。倭漢三才圖會に云ふ。光教寺在金澤。蓮如上人於江沼郡山田。建立光闍坊。後七男蓮誓住持。其子顯誓作書。名反古裏。其後建當寺。兼帶山田。とあり。按ずるに、江沼郡山田村の光教寺の別院なりしゆゑ、金澤のも山田光教寺と呼べりといふ。本寺光教寺の事は、本願寺諸末寺譜に、蓮如男兼誓。於加州波佐谷開基松岡寺。蓮綱也。其弟康兼。於加州江沼郡山田開基光教寺。蓮誓也。傳領加州土山坊。越中田中坊。加州瀧野坊。其子玄宗光教寺蓮能也。とあり。實悟記に、波佐谷松岡寺蓮綱。山田光教寺蓮誓。若松本泉寺蓮悟三人、往生の時影を申入候。何れも壽像に御免候ひし。殊に蓮綱と蓮誓は、現存の時野村殿に於てかゝせられたる事候ひき。といふ事見ゆ、又光教寺顯誓が書かれた